

群 教 セ	G15 - 01
	令 5 . 283 集
	小-キャリア

令和 5 年度長期社会体験研修報告書

研修先：群馬ヤクルト販売株式会社

長期社会体験研修員 志村 由香利

I 研修内容

1 研修先の概要

群馬ヤクルト販売株式会社（以下、群馬ヤクルト）は、ヤクルトブランド商品（乳製品・乳酸菌飲料、化粧品など）を販売する会社である。「健康社会の実現」を目指し、「一人でも多くのお客様に『健康と美』をお届けすること」を使命とし、全従事者が顧客との対話を通じて、信頼関係を築くことを大切にしている。そして、商品の価値普及を積み重ねてきた結果、101 の販売会社の中で、6 期連続（18 年間）全国最優秀販売会社賞を受賞している。また、共助社会の実現を目指し、県社会福祉協議会や各自治体と地域包括連携協定を締結している。さらに、従事者の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進を図る取組が認められ、経済産業省認定の健康経営優良法人を取得している。ヘルスケア分野を中心として、地域貢献や人とのつながりを第一に考えた様々な取組を行っている企業である。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月～5月】（研修場所：本店、サービスセンター、商品納品先企業・施設等）

新入社員と共に役員や各部門長の講話を聴き、経営理念や使命・価値観などを理解した。新人ヤクルトスタッフ研修にも参加し、商品や健康に関する知識や接遇の心構え、ビジネスマナーを身に付けた。宅配や直販等の同行の際に、研修で得たことが従事者に浸透していることを感じた。

(2) 様々な部署での研修【6月～7月】（研修場所：本店、サービスセンター、県内各地）

財務部では、障害者雇用で勤務する社員の業務を視察し、就労支援の実態を知った。視察での本人との対話から、上司の方に得意分野が生かせる役割を見いだしてもらえることへの喜びと自信を受け止めた。特別支援学級に在籍する児童生徒の就労につながる支援や指導のヒントを得ることができた。

(3) 未来価値創造部での研修【6月～8月、1月】（研修場所：地域サロン、企業、学校）

管理栄養士や健康管理士の資格をもつ社員が地域サロンや企業などで行う「健康教室」における運営補助の経験を基に、実践協力校（以下、協力校）の校内研修にて自ら講師を務め、教職員の健康意識向上を図った。健康寿命の延伸や従業員の健康を増進することで生産性の向上や組織の活性化を図ることを目指す「健康経営」についての意識が高まった。

(4) 宅配サービス部市場開発チームでの研修【9月～12月】（研修場所：高崎北サービスセンター）

社員と一緒に、ヤクルトスタッフの採用活動や新規顧客開拓に従事した。一軒一軒お宅を訪問し、相手に出会えたことに感謝をしつつ、常に傾聴を心掛け、信頼関係を築いていくことの価値と喜びを実感する日々であった。人間関係構築の基本姿勢について、見つめ直すことができた。

(5) 人材開発部での研修【通年】（研修場所：本店、各講義や会議の開催場所）

人材開発部が企画する社員研修を受講したり、運営を補助したりした。奉仕の心と高い教養・スキルをもつ人材の育成に力を入れる組織風土の中で、従事者の自律的で継続的な学びや社会人としての職能成長を支える環境整備が働きがいにつながり、個と組織の成長の好循環が生み出されていた。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育について

キャリア教育において、小学校段階は社会的・職業的自立にかかる基盤形成の時期である。協力校児童の年度当初の実態から、共感的な人間関係の構築が課題として挙げられた。そこで、基礎的・汎用的能力の一つである「人間関係形成・社会形成能力」の育成を目指すこととした。また、群馬ヤ

クルトで大切にしている「信頼関係づくり」の取組は、児童が主体的に自分と向き合い、多様な相手との交流の気付きを促す要素として結び付くと考え、実践を計画した。

(2) 実践の概要（前橋市立桃川小学校）

授業実践

題材名 「卒業を迎える私へ」（特別活動）

対 象 第6学年1組 27名

実践のねらいは「人から信頼される行動について、考えたり協議したりすることを通して、小学校卒業・中学校進学を迎える自分の生き方について、見つめ直すことができるようにする」とした。児童は1時間目の導入で、ヤクルトの歴史や商品の普及の仕組み、ヤクルトスタッフが大切にしている信頼関係づくりについて知り、自分自身の学校生活と結び付けた。そして、信頼される人の行動についてそれぞれ考えを出し、班で意見交流をしてまとめた。2時間目は、班ごとに発表を行い学級全体で共有した。2時間目の最後には、卒業までの自分の過ごし方を「生き方宣言」として発表を行った。児童は自分と仲間とのつながりを振り返り、単なる行動目標ではなく、信頼される行動の大切さへの気付きを根拠とした責任感のある行動指針を自己決定することができた。

II 研修成果

1 健康経営について

未来価値創造部での健康経営普及に関する業務を通して、様々な企業が健康管理を経営的な視点で捉え、従業員への健康投資を行うことで、活力向上や生産性の向上など組織の活性化に向けて戦略的な実践を進めていることを学んだ。このことを踏まえて、新しい時代の持続可能な教育環境の構築を目指した。主体的に個々の生活の質や教職員としての人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、児童に対して効果的な教育活動を行うことができるようになることを考える。学校組織が意図的・計画的に健康経営に取り組むことができるよう、今後もあらゆる機会をとらえて意識を高めていく必要がある。

2 人材育成について

人材開発部が企画・運営する様々な研修に携わり、人への投資を重視した組織の中で学び続けることで、一人一人が信頼ある社会人として成長し、組織の成長を支える力につながっていることを学んだ。学校現場においても、人間性・協働性・同僚性・専門性などの向上を目指した研修の提案を行い、教育のプロとしての人材育成に参画することで、今後も現職教員の教職へのエンゲージメント向上と教員志望者に向けた魅力を発信していきたい。

3 キャリア教育実践について

実践により、児童は信頼される行動や人柄に価値を見だし、自分自身の生き方を見つめ直すことができた。実践後も学級担任と連携し、キャリア・パスポートを活用して児童の意識や行動の変容について継続的に見取ることができた。卒業直前の3月には、宣言後の行動について振り返ることで、より自己実現に向けた成長意欲が高まっていた。発達段階に応じて「人と人のつながり」「信頼関係」について考える機会を設けることは、人間関係形成能力の育成につながった。

III まとめ

群馬ヤクルトでの研修を通して、信頼関係を基盤としたつながりのある付加価値・生産性の高さを実感することができた。また、企業で得た学びを実践という形で児童に還元し、キャリア教育の意義を教員に伝えることができた。今後も、児童のキャリア発達を促す意図的な働きかけを継続していくとともに、中堅の立場として後進の育成にも尽力したい。

（担当指導主事 道上 行彦）